



南アルプス聖沢源流部の紅葉

目次

「森林・緑花そして環境」…………… P2	県営住宅団地緑地維持管理実態調査終了…………… P9
静岡県環境森林部 森林総室長 本間康弘	我が社の自慢 桜大径木の移植…………… P10
モザイクカルチャー 制作報告会を開催…………… P3~4	大島造園土木(株) 樹木医 藤又豊伸
受賞者紹介…………… P4	造園施工管理技士会だより・編集後記…………… P11
東京名園視察研修記…………… P5~8	特別寄稿 会長 乗松文男
草花を使った炬火ランナーを制作、贈呈…………… P9	話題の森 トピックス…………… P12

森林・緑化そして環境



静岡県環境森林部

森林総室長 本間康弘

日頃より、本県の緑化の推進には多大のご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

秋真っ只中、人口林面積がおよそ六〇%の本県の森林にあつても、色とりどりに紅葉した広葉樹が、訪れる人々の目を各地で楽しませてくれて、います。紅葉の名所は県内各地にありますが、森林には秋の紅葉だけでなく、春の芽吹きから新緑、盛夏の緑へやがて静寂の冬の森へと移り、四季折々の姿を見せ、県民に癒しと安らぎを与えてくれています。

この森林が社会に与える最大の特徴は、きわめて多様な機能をもつこととであり、有史以来、森林と人間は非常に大きな関係がありました。住居のための資材、食料や燃料、きれいな空気や安定した水の供給そして土砂流出防止など、人間の存在そのものに深く係わり、安全で豊かな生活環境に欠かせないものとなっております。

しかし、都市化の進展が都市部を中心とした地域から、森林をはじめとする自然を失い、日常生活において森林と触れ合う機会も追いやり、その結果、人間を自然音痴にさせております。このように、われわれを取り巻く社会環境や経済環境、自然環境は大きく変化する時代となり、環境にさまざまな影響を与えている森林は、二十一世紀へ向けた持続可能な社会の実現のための、重要な財産であると考えております。

県では昨年十一月に、二十二世紀を見据えたしずおか森林の将来像を

現するため「森林を守り、育て、活かして豊かな環境を創造する」を基本方針に掲げ、「二十二世紀に送る富国徳の森づくり」静岡県森林・林業基本方針を作成いたしました。この中で、十の目指す森林の姿を示し、その森林の姿を実現するための三つの目標と取り組みの方向を示しました。現在、具体的な手法は県民委員および専門委員二十五名により、十五年度と十六年度の二年間をかけて、検討をしていただいているところでです。

さて、二十世紀の終わりにからめざましい発展を続けていた日本経済はバブルが崩壊し、二十一世紀に入った現在も中々回復の兆しが見えておりません。人々の価値観やライフスタイルが「量的な物の豊かさ」から「質的な心の豊かさ」へと変化し、自然に接した潤いのある生活を望むようになり、森林や緑とのふれあいに対する欲求が大きくなってきております。

一昨年、貴協会から多大な協力をいただき県が整備いたしました、しずおか緑・花・祭会場(吉田公園)を最近訪れました。秋晴れの日曜日でしたので、幼な子をつれた若い親子、お孫さんを連れれたご夫婦や若者など多くの人々が、散策したり、ボール投げをしたりして楽しんでおりました。

このように、近年は、経済重視から環境重視へと国民の視点も移り、緑化や造園など緑に対する期待が高くなってきております。自然や緑を守り良好な環境づくりや保全を担当する貴協会の果たす役割は、ますます重要であると改めて認識を新たにしているところであります。

本機関誌名の「緑の宝」は大変素晴らしい名前だと思います。資源は輸入することが出来ませんが、森林や緑化に代表する自然環境を輸入することは出来ません。県総合計画で言っております、「環境の世紀を拓く。持続可能な社会」づくりのため「緑の宝に覆われた本県が、良好な環境に恵まれ安全で安心な生活が出来ますよう、ご支援、ご協力をお願いいたします。結びに当たり、造園緑化は単なる庭づくりでなく、地域の良好な環境のつくり手であるという自負を持っていたくとも、貴協会並びに会員の皆様のご更なる発展をお祈り申し上げます。



モザイカルチャー 制作報告会を開催

〔財〕静岡国際園芸博覧会協会からの依頼で、カナダモン
トリオールで開催された「モントリオール国際モザイカルチ
ャー展」へ出展する作品制作のため、(株)ハケ代造園の衛藤
徹雄さんほか五名の方に五月二十日から一ヶ月間、モン
トリオールで活躍いただいた。その内容については本誌夏号で詳
細に報告したが、ここでは、六名の方に登場いただいた、去
る九月二日開催した発表会の概要について報告する。



熱心に耳を傾ける会員たち

九月二日、午後
三時から、ブケ東
海静岡において、
カナダで苦勞願っ
た六名の皆さん
にモザイカルチャ
ー制作のあれこ
れを報告願った。
報告会には、理事
会を終えた協会
理事をはじめ、会
員、園芸博覧会協
会の職員等七十
名もの参加者が
あった。

開会に当たり、西野製作会長
と〔財〕静岡国際園芸博覧会協
会、展示部、西島技監からの挨拶
のあとまず団長の(株)ハケ代
造園の衛藤徹雄氏から、モン
トリオールモザイカルチャー展の
概要説明があった。会場は十二
ヘクタール、六十一ブースで既存
施設の広場を活用して多種多
様な造形物で彩られていた。過



衛藤団長

「モザイカルチャー」は植物
の葉の色、花の色の違いを生か
し、細かい葉や花の密集した組
合せで、自然や動物などをさま
まな造形を作る園芸技法で、そ
の手法は日本のツゲやマキ等
で作る鶴や亀のトビアリーとも菊
花で作る菊人形とも異なる。
詳しくは六人の発表や会報「緑
の宝」夏号を参照願いたい。



小林さん

去二回開催し、一三〇万人が入
場しているが、今回は入場者を
一〇〇万人予定し、入場料は日
本円で千円程度。

衛藤団長の概要説明のあと
(有)小林造園の小林千尋さん
からカナダ・モントリオールの豊
かな自然と魅力的な街の紹介
があった。

次いで(株)庭仁の渥美千恵さ
んからは高い部分にはバケツリ



渥美さん

(株)西野造園の西野ういか
さんからは、この展不会が「伝説
と神話の世界」がテーマであった
ことから、各国、各都市の出現
作品にまつわる伝説を興味深
く、詳細に紹介があった。
最後に、木下造園(株)木下光
宣さんからは、参加都市と参加
者の紹介、寄宿舎での毎日、毎



和田さん

レいで人工土壌を詰めたこと、
大波、小波、たご等に要した人
工、全部で三五、〇〇〇本余の
植物を植えたんだことなどの苦
労話の報告があった。
(株)片桐造園建設の相田典
久さんから、ピートモスやコンポ
ストを使った人工土壌、草丈三
cm、根系五cmのアキランサス、セ
ダム、コリウス等の植物材料等
を使った新しい園芸手法の観点
からの報告があった。

最後に静岡国際園芸博覧会協会屋外展示課の杉本課長代理から六人への苦勞のねぎらいと今後の活躍を期待する挨拶で報告会を閉じた。

報告会のあと六人を囲んでさあやかではあ



木下さん

日同じメニューの食事共同生活のエピソードなどの報告で六人の発表を終った。



西野さん

るが懇談会を開催したところ、帰国後、三ヶ月も経過しているため話に花が咲き、これからの取り組みに対する六人の熱意が伝わってきた。

作品は「金賞」を受賞

六人が苦心の上、完成させた静岡国際園芸博覧会協会出版の作品は、国際コンペティションの部で、みごとメトロポリス賞「金賞」を受賞した。

メトロポリス賞は文化の多様性を最も表わした作品に与えられる賞で、協会の庭園は入場者の関心を最も集めた作品の一つとして高く評価された。また、施工チームが明るく、元気のよかった点やチームワークの良さも関係者に好印象を与えたことも大きかったとのことである。



トロフィーを手に笑顔の園芸部長

受賞者紹介

第十一回

静岡県優秀
施工者として
伊豆箱根
鉄道株式会社
の伊藤寛
敏氏が景知
事顕彰の栄
誉に輝きま
した。おめで
とうござい
ます。

伊藤氏は

入社以来三〇余年にわたり、一環して造園工事畑で、官公庁発注の公共工事の現場代理人や自社工事の監督を務め、設計意図をよく理解し、作業員の気心をつかみ安全や工期を守り、工事を完成させてきた。

三島田地区の気候、土性をよく理解した上で施工に臨み、樹木の特性に合った土壌改良法、植栽及び植栽後の養生方法を選択して枯損率の低減に努めてきた。

三島葬祭会館建設に伴う植栽工事では、多数の業者、工種が同時進行する中、工程調整や安全、品質管理に努め、故人を葬送するにふさわしい庭園を完成させ、その施工技術は高く評価され、三島市長感謝状も授与された。

最近ではCALS/EC時代に備え共に学ぶ精神で部下と共にその知識、技術取得に努めている。



知事顕彰の伊藤寛敏氏

樹木余話

イロハモミジ

(カエデ科)

森林に普通に分布する落葉広葉樹の高木で高さは10m程度になる。秋の紅葉が美しく公園樹、庭園樹と和風、緑陰樹、社寺境内に植栽される。京都の高尾が有名であることからタカオモミジ、またイロハカエデとも呼ばれる。紅葉という言葉はもとも草木や草が秋の冷え込みとともに赤や黄色になる「紅葉現象」であったが、その現象を見せるイロハモミジを中心とする樹種の名前としても使われるようになった。

紅葉の秘密は、元氣な葉には緑の本体である「クロフィル」黄色の「カロチノイド」を含んでいるが、葉の老化が進むとクロフィルが分解してカロチノイドが残り、黄色となる。紅葉は紅色の色素アントシアニンが合成、蓄積されて紅色に、褐色はタンニンが酸化されるからだといわれる。



東京名園視察研修記

恒例になった社・静岡県造園緑化協会と静岡県造園施工管理技士会共催による視察研修は、東京へ決定。参加者は二十五名であった。オープンしたばかりの六本木ヒルズ、その中の毛利庭園やヒートアイランド現象緩和を視野に入れた屋上庭園、六義園、小石川後楽園、浜離宮恩賜庭園の見学とハードスケジュールの中に少し遊びを加えて夜は隅田川屋形舟で夕食、時事問題にも関心を持って、海上保安庁の巡視船と銃撃艇の末、沈没して引き上げられた北朝鮮工作船の見学と盛り沢山の研修で参加者は満足の様子であった。以下、参加者の感想文を掲載します。

穏やかな空間それはより自然に近いから 赤池造園(株) 内田文字

今回はからずも、古今の有名な庭園を、見学する機会を与えていただきました。

今、マスコミ等で話題になっている六本木ヒルズは、総工費二、七〇〇億円、世界最先端の都市東京の空間街である。その中に毛利庭園がありま



榎原顧問設計監理による毛利庭園

す。かたや、四〇〇年前の、小石川後楽園と、徳川綱吉の御側用人・柳沢吉保の六義園です。

これらの庭園は非常に対照的で面白い。後者は大名庭園といわれ、手入れの行き届いた庭に、時を経た老木や石、池が配置され、春は桜、つじが花咲き、秋には、すばらしいもみじの紅葉と、四季折々の木々が見事に配置されています。

一方、毛利庭園には、高価な木々はほとんど無く、どこにももある木が植栽され、水と木々の緑、石がより自然らしく配置されています。

後楽園と、六義園は、一瞬ごち

らが構えてみるような高価な庭園ですが、毛利庭園にはそれがありません。ごく自然に受け止められたのです。おそらくそれは、建物の存在があまりにも大きすぎ、おなじように庭園に手が加わりすぎてしまったならば、このような空間は生まれなかつたでしょう。木々や水の流れを、より自然に近い形に配置したために、そこに立つ人々が、自然と

気が感じ取れたのでしよう。二日目に訪れた品川のオフィスビル街も、また、推奨した添乗員さんの言葉を借れば、話題の空間街である、しかし、街路地のみ等間隔の木々が移植され、ビル周囲には一本の木さえ植栽されていませんでした。きっと、オフィスの機能性を最優先に掲げたのでしよう。できれば、オープンカフェのあたりに木々があり、その間からこぼれ落ちる光や、時折顔に当たる木々の風の心地よさを、楽しんででもよろしいのではないかしら。そこで頂くコーヒーや、食事もグウンとおいしさが増すでしょう。

今回の庭園めぐりは、これからの庭園のあり方や、方向性を感じ取れる旅行でした。より自然に近く、ひとの心を癒してくれるような庭園が、忙しい現代人には好まれるでしょう。毛利庭園は、それをはっきりと現わした庭園です。

最後に、今回の企画に参加させていただいたこと、加えて、専門家の方々の庭園に対する真摯な態度に触れる機会を得たことに感謝申し上げます。

六義園にて

有意義な日本庭園視察

王子木材緑化(株) 松崎和幸



榊原顧問の説明に聞き入る会員

今回の研修会では、普段、現場で実際に施工されている皆さんとは、違った立場(造園工事施工については素人同然)で、参加させていただきました。

まず、オーブン間もない六本木ヒルズ設計の榊原先生の解説による、毛利庭園見学とウォーキングツアーによる、六本木ヒルズ全体の見学と、そのコースの中の

今回初めて協会の研修会に参加させていただきました。
今回の研修会は、日本庭園の視察がメインで、普段私が訪れることの無い場所を見学できたことで、とても有意義に思っています。

普段私は、会社の仕事では緑化資材を担当しており緑化用樹木や、土壌改良剤、肥料等の販売をしています。それだけに、

ケヤキ坂コンプレックス屋上庭園見学。二十四時間眠らない街のテーマのとおり、近未来的な建築物の中にあつて、毛利庭園は都市の喧騒を一瞬忘れさせてくれるような心の安らぎを与えてくれる庭園でした。

二日目の六義園と小石川後樂園、浜離宮恩賜公園。柳沢吉保の築園した和歌の趣味を基調とした大名庭園の六義園。徳

川頼房が造り、光園が完成させた中国趣味豊かな小石川後樂園。松平綱重によつて築園され、十一代将軍家斉の時に完成した都内唯一の回遊式潮入築山

六本木ヒルズの中の毛利庭園が見れる。常に新鮮な情報を見て聞いて体験したいと願っている私にとってこの話は、またとないチャンスだと思ひ研修会に参加させて頂きました。

濱名湖花博開催を来年四月に控え「来場者が喜んでもらえる空間、情報発信、サービスとは何か?」——人気スポット六本木ヒルズ・毛利庭園の魅力とは?実際に触れて新たなヒントを得たい。そんな思いを胸に秘め視察研修バスへ乗り込みました。



水田を取り入れた屋上庭園

九月二六日視察一日目天候晴れ。都心の渋滞に巻き込まれながらもバス

は無事に目的地へと到着しました。金曜日という事もあり土日は混雑と比べたら比較的游客は少ないという事でした。早速目的である毛利庭園前で設計監理者、榊原氏から毛利庭園の説明を受け、庭園内を案内して頂きました。「森タワー」という六本木ヒルズの中のメインとなるビルと「テレビ朝日ビル」の間に置

居心地良い空間には自然が存在

株式会社グリーンダイナミクス 望月真一



毛利庭園の一部



屋上庭園

まれた毛利庭園ですが庭園内を歩いている時にはまるで林の中を散策している様な錯覚さえ感じました。とても居心地の良い、長イスがあつたついで寝転んで空を見たりするような空間がそこにありました。気持ちの良いリラックスした状態で参加した。

「六本木ヒルズタワーキングツアール」はヒルズビルの各所の見どころを押さえたツアールで一日で周りきれない程広い六本木ビルズ内外を四〇分前後で上手に案内してもらいました。

り、九月後半には少し暑くなった陽気のせいもあるのですが、ビルの中よりも外で人々がくつろいでいる姿の方が印象的でした。

毛利庭園と六本木ヒルズで体験した新鮮な感動を味わった次の日は東京の代表的な大名庭園の一つである六義園。そして小石川後樂園と、今まで行きたかった庭を巡る事が出来ました。都会にありながら静かな落ち着いた

自由時間という事でガイドツアールの後ビル周辺を周つていて驚いた事が一つあります。それは森ビルの三階の広場、休憩所付近に沢山の人が集中していた事です。本を読んだり、仲間と話をしたり各自気ままな時間を過ごしているという感じでした。ベンチも沢山置かれた、水を使っ



アーチ橋の説明(後樂園にて)

のある印象を受けた六義園。回遊式庭園の中で様々な自然の景観を楽しむ事の出来る「動」の印象を受けた小石川後樂園とても良い勉強をさせて頂きました。

今回の視察研修から自分が得たものとして限られた小さな空間であっても居心地の良い場所には必ず人間が集まる。その空間には必ず自然が存在している。という事を身を持って得る事が出来ました。得た事を今後の仕事に活かしたいと思えます。

いろいろな団体の視察研修会に参加したが、今回ほど庭園視察が充実した研修は初めてだ。これでもかという位、日本庭園を見て回った。協会顧問の榎原さんの手掛けた毛利庭園、回遊式大名庭園の六義園、後樂園、浜離宮と歩きまわった。私を含めた相当数の会員が、一週間分のウォーキングをして、さぞかし健康になったに違いない。

庭園については、他の人が書くだろうから、私は北朝鮮の工作船を見学した感想を書くころと思う。先ず衝撃的だったのは、そのあまりにも小さくてたよりにない船体と、ドラム缶のように薄い鉄板だ。そして船体とアンバランスなスクリーンの数。船の科学館に入てまたびつくり仰天だ。恐るべき戦闘能力の装機銃や地对空ミサイル、ロケットランチャーや自動小銃など、危機管理意識の薄い日本人にとつては身震いさせられる兵器ばかりがぞろぞろ並べられるのではない。船尾の観音開

きの扉から出入りする小型船があり、その中には水中スクーターだ。まるで「07」の映画じゃないか。テレビで見たの工作船と、日本の巡視船との壮絶な銃撃戦が、まさまじと脳裏によみがえってくる。北朝鮮のような無法者国家は野放しにすべきではないのと同じで、遠くに置き忘れていた侍魂がフツフツと湧き上がってくる。この銃撃戦の際、巡視船の海上保安官が三人も負傷したのだ。この様な事が、金正日体制が続く限り、いつ繰り返されるとも知れない。私は平和は望むが、平和国家の名前の上にあぐらをかいてきた日本人は、今こそ「本當の平和」とは何なのかを、深く考え、議論しなければならぬ時がきているように思う。

最後に、帰りのバスの中で見た某寺の住職の説法のビデオの中での話が、景気低迷に心がずさんでゆく我々経営者に、一時のやすらぎを与えてくれたのが印象的だった。

充実した庭園視察そして驚きの北朝鮮
(有) 森荘造園 森 一延

庭園は人が作り自然が育て人が守る

庭苑デザイン 太田 誠

長い年月が庭を造り育てると感じた二百間でありました。

まだ生まれて間もない六本木の毛利庭園を散策し、人の知恵を結集した英知のビルと庭園の中に驚きを感じた。しばしの休息の後、六義園、後楽園を見学。



ボランティアガイドの説明に耳を傾ける会員

管理、維持され大切に守られてきた庭園である。庭の中に植えられた松やケヤキの大木にも、また小さな雑草にも、足元の踏みしめる土にも、ここが大会、東京であるのか忘れるほどであった。静寂で緑豊かな

これらの庭園に足を踏み入れるとき、江戸の遙か昔、先人達が創造した庭園は、人間の方だいで出来上がった庭園でない何かを感じたのは確かである。もちろんこれらの庭園は現在にいたるまで、数知れない多くの人達によって



芝生主体の屋上緑化

なこの庭園は長い年月の間、土を肥やし、樹を育て多くの動物達に命を与えた、太陽と大地がこの庭を作り出し、人の力では到底出来得ない自然の力を感じたのである。

庭作りに携わって長い間、多くの名園と呼ばれる数多くの庭を見学、鑑賞し、もちろん、六義園も、後楽園も写真などでも目にしてきた。東京に住んでいた頃から東京の名所などには関

ルの変化とともに、六本木アール

と想っておりです。

心があり、尋ね回つてはいるがこのような旧跡、史跡、特に名園と呼ばれる東京の庭園は一度も足を運ぶことがなく、思えば恥ずかしい限りである。自分の中では庭園といえれば京都であるなどと、わからないままに小さな偏見を持って見ていたのかも知れない。

クヒルズや、新宿都庁、お台場などといった施設が次から次へと生まれ、人々はこれらの情報に遅れまいと先を急いで関心を持ち、出向いて行く。

新しく生まれた名所は人が作り、人が守り、その文化を維持していくが、根本的に庭園は人が作り、長い時間を掛け自然が庭を育て、さらにそれを大切に人が守り、こうした名園が生まれてくる。



高層ビル屋上のささやかな緑化

草花を使った炬火ランナーを制作、贈呈



北村局長から感謝状を受ける

開幕が間近に迫る十月十四日、協会では、NEW!!わかふじ国体と全国障害者スポーツ大会「わかふじ大会」をとりよすため、草花を使った炬火ランナーのトビアリーを県に贈呈しました。

贈呈は西野会長、乗松副会長、片桐西部支部長が出席して県庁本館前で行い、両大会実行委員会事務局の北村局長から

「大会の盛り上げに役立ちます」の言葉のあと感謝状、大会マスコット「ふじっぴー」の縫いぐるみをお願いした。

トビアリーは西部支部に依頼して制作したが、国体開催期間の開花にあわせた播種、どんな種類の植物にするか、伸長を押しさえるための矮化剤処理等植物調達面での難しさがあった。

また躯体は植物を植え込まない時点で一度よい体格であったが植物を植え込んだ分、太った形のトビアリーとなっていました。

このトビアリーは一週間、県庁本館前に展示し、その後は、全面的に植物を植え替えて秋季国体の本拠地エコハ前の広場に設置して、来場者の目を楽しました。

県営住宅団地緑地維持管理実態調査終了



自己流で剪定された小公園

静岡県住宅供給公社から県営住宅団地の緑地維持管理計画の策定を依頼され、会員の協力により全団地の現地調査を終わりました。御苦勞様でした。

団地数は一〇〇団地、面積は一三〇万平方メートル、戸数は一万五千戸に及ぶ。その中の樹



荒れた小公園 プロの管理が待たれる

種、大きさ、数量等を調査し、理想的な管理を行うとどれ位の経費が必要なのか試算をした結果、約二億三千万円となった。

県営住宅団地の緑地の管理は中高木は業者に発注するが低木は入居者が行うのを原則としているという。しかし、予



すばらしい樹形の高木、行うとすればすかし剪定を

算も少なく中高木についても計画的な管理はできず、入居者から苦情があった際に対応している程度とのことで、今回の調査依頼となった。

三〇年代四〇年代の好景気時代に緑化した団地では樹木が茂り過ぎて、根本から伐採しなければならぬ団地もあるという。

新たな造園建設工事が減少するなか、このような管理業務が新たな事業展開になることが期待される。

桜大径木の移植

大島造園土木(株) 樹木医 勝又豊伸

はじめに

八王子郊外に位置するトヨタ東京デザイン研究所は小社が、五年ほど前から管理委託され、現在に至っている場所であるが、

武蔵野丘陵の自然環境が随所に残っており旧大字用地であった事からサクラの並木が美しく、同時にオオタカの営巣地としても知られている場所である。

この地区



100tレッカーと台車で移動

最大級のソメイヨシノが新築工事の範囲となり、計西部署を廻って位置変更し努力したが取り回しの関係で伐採予定となつてしまった。景観上も優良なサクラで有る事から再度計画部署と調整を図り、この桜の移植

を周辺植栽工事に含めて承認頂いた。

(紙面制約上要点のみ)

移植ソメイヨシノ概要

平成一〇年九月実施

樹高十六m、葉張十四m、

目通り二m、合計三本

問題点

建築物の関係で九月二十五日まで完了させる。

こだわり

自然樹形を崩さない

全体を切り縮めず、そのままの自然樹形を維持し

内部の透かし剪定で対応し、そのまま百トンレッカーで吊り上げ台車移動。

腐朽菌進入防止

当然ながら桜は腐朽に弱く、親指以上の太さの切り口は酢酸ビニル樹脂をベースにした混合液でコーティングし完全に保護

夏季の幹焼対策

余分な体力を消耗しない様、葉はむしらずに小枝透かしとし、幹巻きも出来るだけ先端まで実施。



翌春の開花状況

乾燥防止

冬季の寒風による慢性乾燥を防止する為、樹木全体に酢酸ビニル樹脂を薄く伸ばしコーティング処理し根元はデラ植栽とパークマルチングによる踏圧保護を含めた細根の保護に努めた。

等、一般造園手法に拘らない種々の対策を実施。

結果

翌年四月には全数開花し現在に至っている。

反骨点

自重が二十トン前後とかなり重さであり、釣り具を当てた幹では圧壊が数ヶ所発生。クッションに二層の努力を感じた。根の切断に際しての腐朽防止剤に当時適当な物の理解が乏しく、青苔菌を発生させてしまった。

仕事を終わって樹木医の技術を随所に活かし、種々工法を検討し活着をみた物で開花を見る度に感慨深く思い出に残る桜である。

造園施工管理技士会だより

造園施工管理技士受験対策講習会を開催

本年も七月三十一日、八月一日の二日間にわたって静岡産業経済会館において造園施工管理技士受験対策講習会を実施した。受講生は景気の影響が、年々減少し本年は十九名であった。それでも昨年の十五名よりは四名の増となった。

講師は常任理事が担当し、今のスタッフでは二回目となる。

○関係法規・受験要領

乗松文男会長

○造園管理・設計図書

小林白二副会長

○造園計画・設計・植栽

望月收彦副会長

○施工管理と施工各論

水野豊副会長

○造園材料 澤平太常任理事

○造園施設 川口植二常任理事

○測量・工事検査

吉岡愛策常任理事

本試験は一級は学科が九月七日に行われ十月二十三日に合格発表、十一月七日に実地試験最終の合格発表は十六年二月二十四日となっている。



講習会風景

二級は九月二十一日に試験が行われ、十二月十二日に合格発表されることになっている。全員の合格を祈念し、技士会への入会をお待ちしております。

特別寄稿

技士会会長 乗松文男

ことわざ

古来より日本の生活経験や知恵、教訓が生かされていることわざをいくつか並べて見ました。

危ない橋も一度は渡れ

過ては改むるに憚ることなかれ

牛の角を鮮が刺す

泳ぎ上手は川で死ぬ

口では大敵の城も建つ

鹿を追う者は山を見ず

竹屋の火事

大根を正宗で切る

転がる石には苔が生えぬ

夕焼けに鎌を研げ

丸い卵も切りようで四角

夏は日向を行け冬は日陰を行け

天網恢々疎にして洩らさず

握れば拳開けば拳

人の牛勞で法事する

私達の日常生活でも役に立つことわざは、まだまだ沢山ありますが今回はこれにて又いずれの時に。

以前に読んだ、

詩を思い出しました。

「一本の道を」

木や草と人間と

どこが違うんだろうか

みんな同じなのだ

一生懸命に

生きようとしているのを見ると

時には彼等が、

人間より偉いとさえ思われる

彼等は時がくれば花を咲かせ

実をみのらせ

自分を完成させる

それに比べて人間は

何一つしないで終わるものもある

木に学べ

草に習えと

私は自分に言い聞かせ、

今日も一本の道を歩いて行く

（詩集 村より）



お知らせ

浜名湖花博まで余すところ五ヶ月、前売り入場券の二割引き期間も九月末日で終わりました。

園芸博協会から業界全体をまとめての要請を受け、懸命の努力をしましたが、約束の一五〇〇〇枚以上の一七、〇〇〇枚余を購入いただきました。会員の皆様の御協力に對し、お礼を申し上げます。当初予定した受注に応じた協力体制は一部で理解が得られず実現しなかつたので、十月以降の売注を見込んでの二割引き券の大量確保の必要性はなくなりましたが、種類によっては若干のストックがあります。どうぞ御利用下さい。

編集後記

事務局にとっては激動の九月、園芸博に明け、園芸博に暮れた感があります。会報の発行もままならず、十月中には発行すべき秋号が初冬の十一月になつてしまいました。ともすれば消えそうになる園芸博に對する情熱と平いながら、それではいけないと屋外出展、屋内出展あるいは庭園ガイドと少しでも役立てばと少ない事務局で懸命の努力をしております。会員諸氏のご理解とご協力をお願いいたします。



トピックス

建設業しんぶん2003年4月より

ビジネスマンの成長レベル

日刊業報紙「建設業しんぶん」の本年4月号にこのような記事がありました。会社の経営、団体の運営の参考になればと思います。

1. はじめに

人間の成長モデルとしてユングの「個性化」、エリクソンのライフサイクル」などが有名です。しかしこれらの考え方は学術的で、一般には分かりにくいものでした。今では、こうした先人たちの理論をふまえ、簡単に分かりやすくそして示唆に富む人間の成長モデルとして自立・依存・相互依存の成長モデルが広く受け入れられています。

これは数年前にベストセラーとなり、現在も名著として読まれているステイブ・R・コヴィー著「7つの習慣」によって、一般に広まり、とくにビジネス界ではこの本のおかげで語られた「Win-Win関係」という考え方があわせて広く知られています。今回はこの「自立・依存・相互依存」の成長モデルについてシメスします。このモデルによれば、人は最初、人

がらも、そこから積極的に学び、仕事を覚えて成長していきます。やがて自分の適性をつかみ、主体性をもち仕事を自ら「自立」のレベルを進みます。しかし、この成長プロセスを途中で放棄し「依存」状態のままに居続ける人たちがいます。これらは「自主性」がありません。覚えた仕事はひとりでできず、与えられたものをこなすのみで、自分で考えて計画を立てたり、仕事のやり方を工夫したり、新しいものごとで自分からチャレンジしてはなりません。

ものがたまりついでいるときはいいのですが、不都合が起きたりしたときはこれを自分以外の人間、周囲の環境のせいにして、責任を回避します。また常に現状維持を最上とし、変化に対しては否定的で、それができない理由を数え上げます。

3. 「自立」のレベル
「自立」のレベルへ成長を遂げた人には自主性があります。自分で仕事を計画、実行、評価し、そこから学び、効率的に仕事をこなします。自力でたくさん仕事をこなす。大きな業績を上げます。そして、やがてより大きな仕事と業績を上げるためには、ひとりの力だけではできず、コミニケーションの重要性を自覚して相互依存のレベルへ進みます。

2. 「依存」のレベル
どんな人も最初のレベルから始まります。新人社員などはまさにこの「依存」の状態から出発します。「依存」のレベルにある人は、従順で素直で、とよにえられた仕事を一生懸命にこなす、とよにえられたすら頑張り、ミスや失敗を繰り返して

くくなります。彼の仕事の姿勢は基本的に自己満足であり、彼の業績が必ずしも自分の業績につながるかもしれませんが、周囲を自分の意のままにコントロールしようとして威圧的になったり、自己と意見の異なる人を排除したり、無理強いをし、ときには傍若無人の振る舞いをします。かつてはこうした自立の人間が理想のリーダーとされてきました。確かに人を引っ張ってゆく力強いリーダーシップがあるように思われますが、彼の下につくものはへたへたになるまで使われ、会社全体の効率は落ちてしまいます。

あるいは一匹狼的な存在となり孤立して、自分ひとりだけでやるうと、仕事を限界以上に抱え込み自滅してしまつこともあります。

4. 「相互依存」のレベル
相互依存のレベルにある人は、他の人と関わり、密接なコミニケーション、「相互」の協力・支援を切に、自分より大きなものへの貢献の意識があります。

競争関係のなかで他者を打ち負かそうとするのではなく、お互いが最大限の利益を得られるように考えます（Win-Win関係）から「Win-Win-Win関係」。彼の大事にするものは信頼と誠実です。

彼は社員や部下ややる気にさせる夢やビジョンを掲げ、目標を明確にして会社組織を率います。個人として性を尊重し、彼らを理解し、彼らの力を引き出そうと努めます。

彼らは大きな仕事を成し遂げます。ひとりの力では遂行不可能なミッションを、チームを組んで実現し、さらにはまったく新しいものを生み出すことも可能です。

5. 新しい時代のリーダー

今までの右肩下りの経済のなかでは、業務を効率的に行ない、たとえ強引なやり方ではあっても人を引っ張ってゆける「自立」レベルの人が組織のリーダーとして考えられていました。

しかし昨今の不透明な経済状況のなかでは、社員のモチベーションを高め、その創造力を引き出し、ビジョンをもって人々を導いてゆける「相互依存」のレベルのリーダーが不可欠となります。

相互依存へ進むために何よりも大事なこととは、自分ひとりですべてをやらない「自立を手放し人に委ねる」「人を批判する前に受容する」「人を支援する」といったことにあります。自立をよそよそしいままの企業文化では、こうした「相互依存」のあり方は「弱さ」であると勘違いされています。

しかし今こそ価値の転換を行わなければならない時代において企業が持続し新しい時代を切り抜けるためには、「相互依存」の企業文化を築き上げることが何にもまして重要であるとさえ考えられます。

そのためにも、まず経営者の皆様相互依存のレベルへ成長することが大仕事です。